

令和3年9月30日
株式会社シーエス・ワンテン
バイアコム・ネットワークス・ジャパン株式会社

番組審議会議事録

- ・日時 令和3年9月30日（木）
- ・開催方法 新型コロナウイルスの影響により書面での開催
- ・参加者 審議委員総数 7名
 - 委員長 片岡 朋行（ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所 弁護士）
 - 委員 関谷 信浩（東放学園専門学校・東放学園映画専門学校 学校長）
 - 野村 達矢（一般社団法人日本音楽制作者連盟 理事長）
 - 芳賀 康浩（青山学院大学 経営学部 マーケティング科 教授）
 - 松居 秀之（株式会社ピクス 常務取締役）
 - 松尾 健司（株式会社J-WAVE 編成局 エグゼクティブプロデューサー）
 - 山本 伸夫（株式会社日経BP 日経エンタテインメント！編集 編集長）

（衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワンテン）

福田 泉（代表取締役社長）
谷 俊之（編成局長）

（番組供給事業者：バイアコム・ネットワークス・ジャパン株式会社）

井股 進（代表取締役社長）
本間 雅彦（クリエイティブ&コンテンツ部 シニアディレクター）
戸田 裕介（クリエイティブ&コンテンツ部 編成/タレント&ミュージック マネージャー）
岡田 純明（コンテンツ・ディストリビューション・マネジメント本部 シニアマネージャー）

- ・審議番組 「MTV Unplugged: Kiyoshi Hikawa」
- ・放送概要 2021年8月21日（土）18時～19時
- ・番組内容 世界中のトップアーティストが出演し、独創的で個性あふれるアコースティックライブの源流としてその歴史を刻んできた「MTV Unplugged」。日本制作としては宇

多田ヒカル、平井堅、西野カナ、KinKi Kids、秦 基博など、一流アーティストが登場し、いつものライブとは一味違うパフォーマンスを披露してきた。今回は2000年のデビューから数多くのヒット曲を生み出し、老若男女を魅了し続けているボーカリスト、氷川きよし出演による「MTV Unplugged」を収録し、2021年8月21日（土）に放送しました。「MTV Unplugged: Kiyoshi Hikawa」ではこの日限りのバンドを編成し、敬愛するクイーンの楽曲「ボヘミアン・ラプソディ」のカバーや「限界突破×サバイバー」など計14曲をアコースティックアレンジで披露。近年の彼の音楽活動に見られる幅広い音楽ジャンルを網羅したセットリストで、MTVだからこそできる演出で「氷川きよし」の新たな魅力が伝わる番組制作を心がけた。

・委員からの意見・質問とMTVの回答

○演出・技術が素晴らしい。氷川きよしさんの魅力が存分に味わえる番組だと思う。

○氷川きよしというキャラクターの魅力だけでなく、カメラのフレーミング、スイッチングの技術等、スタッフの力量の高さにも圧倒された。特に、演奏者越しの氷川さんを撮る際のフレーミングと、前ショットとかぶらないよう計算された後続ショットへのディゾルブは感動的でした。通常なら同じ場、同じ配置でこれだけの曲数を収録すると飽きが来るのではと思うが、照明効果等により全く飽きずに最後まで観ることが出来た。

○じっくりと音楽を聴かせ、見せるというMTVらしい番組だったと思う。番組の後半のトークで氷川きよし「人生で一番嬉しい時間」と仰っていたが、その時の氷川さんの表情が本心を語っているのだな、と思えた。

○「MTV Unplugged」×「氷川きよし」という意外性のある組み合わせに驚いた。こうしたキャスティングができることも含めて、ブランドの確立しているUnpluggedだからこそその強さを感じた。また、演歌歌手として長いキャリアを持つ一方で、近年はアニソンやポップスなどにも挑戦されている氷川さんが出演すること、MTVジャパンで制作することの意義や、様々なジャンルが並列する日本の音楽界らしさが出ているような気がする。

○約60分というコンパクトなライブながら、構成もとても良かったと思う。「ボヘミアン・ラプソディ」のカバーから始まり、ラテンテイストのリズム歌謡シリーズ、「限界突破サバイバー」などのロックナンバー、Greeenが提供した「碧し」でラストという流れで、氷川さんの歌ってきた楽曲の幅の広さを存分に感じる事ができた。

○楽曲ごとにピアノ、弦楽器、サックスなどの音色を生かしつつも「Unplugged」らしく、出過ぎないアレンジで、伸びやかな高音など氷川さんの歌の魅力、ポテンシャルも伝わってきた。ノスタルジーさやどこか妖しさも持つ東京キネマ倶楽部という会場もその存在感に合っていたと思う。また、円形に組まれたステージで氷川さんと彼を囲んだバンドメンバーが向き合いながら音を奏でるという画も、初共演の両者のセッ

ション感がすごく出ていた。多くの映像にはバンドメンバーも映り込んでくるため、単純に画としても飽きることがなかった。

○いつものライブとは違う、という点では良いと思うが、個人的にはアコースティックのみで、アーティストの生の声の魅力が伝わるものであって欲しかった。番組としてはよく出来ているが、MTVらしさとは？を考えてしまった。

○現在のMTV視聴者に届く番組の作り方だったのか？選曲、番組トーン等、何故氷川きよしだったのか？がわかると良いと思った。

○放送倫理、編集基準に照らし合わせて問題のあるような表現・発言はなかった。

○今回の番組を拝見し、「ブランド」とは何かを思案した。「MTV」という局のブランド、「Unplugged」という番組のブランドがあるからこそ、「氷川きよし」というコンテンツを、ここまで巧みに自社のコンテンツとして発信できるのだなと思った。

○一方、多少奇をてらったブッキングだなとも思った。新規顧客を連れてきてくれそうなキャスティングで、狙いは明確だが音楽ファンなら「Unplugged」で見たいアーティストがまだまだいるので、ぜひ、日本のトップアーティストの「Unplugged」を実現して欲しい。

○いきなりの「ボヘミアン・ラブソディ」にやられた。いい掴みになっていたと思う。かなり期待値が上がったが、そのあとは個人的にはあまり楽しめなかった。

○「Unplugged」の精神に則ったアコースティックな響きが薄いのが気になった。「生バンド」ではあったが、かなり音数の多い編成はやや違和感があり、ファン以外はなかなか楽しめる内容ではないように感じた。

○「Unplugged」のコンセプトを突き詰めていったほうが良いような印象を受けた。そもそもは「電気を使わない」というところがユニークなので装飾のシャンデリアもキャンドルとかの方が良かったかもしれない。「Unpluggedとは何なのか？」を改めて見つめ直すことが重要な気がした。コンセプトに賛同して超ビッグ・アーティストが出演する、というような循環が理想だと思う。

○コロナ関連のガイドライン準拠に関するテロップは丁寧でよかった。

○幅広い楽曲の選択の良さが、氷川きよしさんの歌唱力と相まって印象が良かった。特に「ボヘミアン・ラブソディ」は自身の世代としても新しい歌の形を示してもらった、という印象を受けた。また、氷川さん自身が演歌という枠を超えた歌手という印象も強く受けた。

○いわゆるUnpluggedライブである為、生バンドの良さが出たし、立って歌う場面だけでなく、座って歌う場面もあり、また、衣装替えもあり、さらに、照明の工夫などもあり、全く変化がなかったというわけではなかったが、どうしてもスタジオ内の映像のみとなり、映像の変化は乏しかった。

○インタビュアーが曲間で氷川さんに話を聞く演出があっても面白かったと思う。

○ファンとのやり取りなどSNSなどを使った演出があってもよかった。

- 選曲がどのようになされたか説明がもつとなされてもよかった。
- Unpluggedならではの上質な演出が非常に心地よかった。会場の内装、カメラワーク、照明、バンドメンバーの衣装なども含めて大人のお洒落なライブ会場にいるように感じた。
- 演奏された曲のジャンルは様々だったが、曲のアレンジと演出が相まって一貫して落ち着いた雰囲気だったので、氷川さんの実力が際立っていた。古くからのファンも最近のファンも没入できたと思う。
- ファンに寄り添うような氷川さんのMCもまた雰囲気にフィットしていて番組のクオリティを高めていた。何よりも氷川さん本人の「楽しかった」というコメントが、彼の世界観、やりたかったことを具現化できた証拠だと思う。
- そもそもアンプラグド寄りのジャンルのアーティストを取り上げることに違和感があったが、実際に見てみると音楽性の幅も広くバラエティーに富んでいて楽しむことができた。MTVの味付けで見せることは意義があったのではないかなと思う。
- リズム歌謡のセクションはさすがに従来感を感じたが、後半は秀逸で、特に「メトロノーム」は心をも裸のアンプラグドにした心情的にもグッと来る強烈な印象を残した一曲だった。曲、演出、ともにこのライブのピークだった。
- 氷川きよしは極端に例えるならデヴィッド・ボウイのような憑依型のアーティストだったんだと彼への印象は変わった。視聴者の方々へもそのように彼の評価を上げる番組になったのではないかな。
- アンプラグドのように一緒に演奏するミュージシャンがフューチャーされる番組だからこそメンバー紹介のときはテロップ出しをしても良かったのではないかなと思った。

・審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和3年9月30日以降、編成担当及び番組制作者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

・審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

令和3年10月以降に、シーエス・ワンテンのホームページに審議会概要を掲載、また、MTVでの放送内でも公表する予定。

以上